

出版物のご紹介



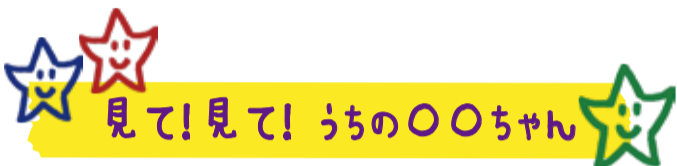
スキー研究 100年の軌跡と展望

出版日：2021/3/1
出版社：道和書院
共著編：多田 憲孝【第3章工学】
(大阪国際大学名誉教授)



政策と行政の管理 —評価と責任—

出版日：2021/1/15
出版社：晃洋書房
著者：湯浅 孝康
(大阪国際大学経営経済学部経済学科講師)



「オウガくん」

8月生まれなので8月(August)からオウガと名付けられました。もともと飼えなくなった家から引き取った犬ですが、先に飼っている猫とも仲良く暮らしています。
(大学職員 鈴木輝久)



本学学生の書評が『週刊読書人』に掲載されました!

—大学生がススめる本—

『食堂のおばちゃん』

著者：山口恵以子 出版社：角川春樹事務所

大阪国際大学人間科学部心理コミュニケーション学科2年次生の森本拓輝さんの書評が『週刊読書人』の「書評キャンパス2020」に掲載されました。この『食堂のおばちゃん』は学内ビブリオバトルでもチャンプ本になった本です。(パトラーはもちろん森本さん)この本に対する熱意を感じます。



★もりもと・ひろき

小説は通学時やアルバイト出勤時に読んでいます。映画やドラマ、ドキュメンタリーなどに関心があります。大学では、笑いと人生の充実度について研究したいと考えています。

森本さんの書評はこちら

<https://dokushojin.com/review.html?id=7992>

図書館HPインタビュー

<https://opac.lib.oiu.ac.jp/drupal/?q=ja/node/168>

★森本さんの書評は『週刊読書人』2021年2月26日号に掲載されています。今年10月には書籍化されますので、こちらも楽しみに♪

世界的な指揮者の佐渡 裕氏と本学園理事長奥田吾朗の対談を学園ホームページにて公開しております。是非一度ご覧ください。



くすくす5月号はお休みします!

*スケジュールは変更になることもあります。

2021年4月1日発行
大阪府守口市藤田町6-21-57
学校法人大阪国際学園 企画・広報室
koho@oiu.jp



—さらにいろんな情報をご紹介します。—



facebook.com/kuskusOIEI



[Instagram.com/kuskusoiei](https://instagram.com/kuskusoiei)



<https://www.oiei.jp/kusutto/>

こちらのホームページでくすくすバックナンバー等をご覧ください。

くすくす

—まなび・くらし・つながり—

2021年4月号

No.95

名前『くすくす』の由来は、「くすくす談笑する様子」と「すくすく育つ」をかけています。

『くすくす』は、みなさまの「くらし」と大阪国際学園の「まなび」をつなげたい、そんな思いを込めたフリーペーパーです。

つながりニュース

■ 守口市教育委員会と中学生が喜ぶ給食レシピを開発

ライフデザイン総合学科栄養士コース2年次生(2020年度)が、昨年度に守口市教育委員会とコラボレーションして中学校給食のレシピ開発に挑戦。守口市教育委員会に4食のオリジナルレシピが採用され、2月と3月の4日間で約2,000食が守口市内の全中学校(7校)へ提供されました。3月11日には守口市立大久保中学校において短大生と中学生との試食会が開催されました。



「FM HANAKO で短大生が思いを語る!」
動画はこちらです。 →→→
出演：学生、教員、守口市教育委員会



えすでいーじーず?

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



持続可能でよりよい世界を達成するために掲げた17の国際目標SDGs(エスディーゼーズ)。今回は「16 平和と公正をすべての人に」「17 パートナシップで目標を達成しよう」を取り上げます。「16 平和と公正をすべての人に」に関連して本学 湯浅講師が解説します。

16 平和と公正を すべての人に



この目標の意味は、「持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築することです。この達成のため、いくつかのターゲットが設定されていますが、その1つに「あらゆるレベルにおいて、有効で説明責任のある透明性の高い公共機関を発展させる」があります。説明責任とは英語のアカウントビリティ(accountability)の訳語ですが、日本では説明責任はアカウントビリティと同じ意味で使われていないように感じられます。本来、アカウントビリティとは、外部者に強制されて実現するもので、行為者が自ら主体的に取り組むことを想定していませんが、日本ではこの仕組みに不備があるからです。公的機関、すなわち国や自治体といった政府のオーナーはわれわれ国民ないし市民です。つまり、われわれ自身が政府をコントロールできてはじめて説明責任は成り立つのです。

いま、新型コロナウイルスの影響から保健所をはじめとした行政機関や医療機関の苦悩が報道されています。間接的ですが、こうした危機に脆弱な体制を容認してきたのはわれわれ自身でもあります。『新約聖書』の「マタイ伝」第7章第7節には次のような一説が

あります。「求めよ、さらば与えられん。(Ask, and it will be given to you.)」われわれ一人ひとりが政治や行政に関心を持ち、どのような社会が望ましい姿なのか積極的に議論していくことも、SDGsの実現につながると言えるでしょう。

(経済学科講師 湯浅孝康)

17 パートナシップで 目標を達成しよう



目標1から16までは、それぞれの国が国内の努力で実現できることもあります。多くは、先進国が途上国を支援したり、先進国と途上国とが一緒に取り組んだりすることでやっと実現できるかどうかという難しい課題です。この目標17では、そうしたパートナーシップをより密により強く結んで、現実を動かしていこうと呼びかけています。

パートナーシップは国と国との間だけで結ばれるものとは限りません。世界中の企業や個人、消費者、投資家、研究者、NPO、支援する側とされる側など、さまざまな立場の関係者が、さまざまな国から対等に参加することで、何を指すべきか、何をすべきか、何ができるかが明確になります。それが、社会を変える大きな力となるのです。

(抜粋：未来を変える目標 SDGs アイデアブック)



大阪国際学園教員紹介 : No.0009



専門分野：行政学 政策学 評価学
大阪国際大学経営経済学部経済学科

湯浅孝康 講師

政策はわれわれの生活に密接に関係しています。今回のコロナ禍で、この政策を支える体制が緊急時には脆弱なことが明らかとなりました。私も分担執筆している「地域を支える エッセンシャル・ワーク」(近日発売予定)では、その背景と実態に迫っています。是非一読ください。